

金杉台中学校統廃合問題に関する陳情

[願意]

私は金杉台中学校の存続を強く希望する立場です。金杉台中学校統廃合問題について、以下の2項目についてお願いします。

1. 当事者（金杉台中学校生徒、金杉台小学校児童、保護者、市内の中学校の教職員など）や地域住民に十分で正確な情報を提供し、丁寧に意見を聞いたことを確認した上で、統廃合問題を審議してほしい。
2. 金杉台中学校を廃校にすることを前提で議論を進めるのではなく、存続させることも選択肢に入れて審議してほしい。

[理由]

2018年11月10日（土）に金杉台中学校体育館で船橋市教育委員会主催の「金杉台中学校に関する保護者説明会」が行われました。教育委員会側の説明は、今後も各学年1クラスという状態が継続することが見込まれるため、金杉台中学校を廃校とし、御滝中学校に統合するという説明がなされました。1学年1クラスの学校では、教育環境として不適切であるから、存続してはならないという趣旨に受け取れました。しかし、小規模校が教育環境として不適切だという根拠も示されることはありませんでした。「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」の中に記された「標準規模の学校において期待される効果の例」では標準規模校の利点の可能性が一方的に強調されているにもかかわらず、それが実現されているのかどうかについては調査されておらず、小規模校の利点については検討すらされていませんでした。実際、質疑応答の

中で、標準規模校では小規模校に比べて上記の効果が高いということを示すような具体的な研究結果や調査報告はないという説明がされました。すなわち、子供たちの教育環境を第一に考えて、と言いながら、実際には、「標準規模」を「適切な規模」に強引にすりかえることで、金杉台中学校を廃校にする前提で議論を進めているということが明らかになりました。

今回は金杉台小学校と中学校の保護者を対象に説明会が開かれましたが、地域住民に対しては、金杉台中学校の統廃合問題が具体化して市や市議会が動き出しているということは現時点で全く知らされていません。また、説明会の中でも、保護者に対して、統廃合後の受け入れ側となる御滝中学校の問題点は知らされませんでした。十分な情報が提供されていないと言わざるを得ません。今回の説明会は、その開催がわずか2週間ほど前通知されました。それにもかかわらず参加できた保護者が意見を述べる機会にはなりましたが、意見があっても参加できなかった人もあり、この問題の当事者である金杉台中学校生徒、金杉台小学校児童、教職員などの意見は全く考慮されていません。正確で十分な量の情報提供した上での意思決定を意味する「インフォームドコンセント」としても無効です。

船橋市には、金杉台中学校統廃合問題に関して、当事者を含めた地域に対して、正確で十分な情報を提供すること、その上で、地域の声を広く丁寧に集めることを求めます。市議会には、本当に市が上記を実行したかどうか確認した上で審議することをお願いしたいと思います。

今回の説明会での教育委員会の説明では、1学年1クラスであることが問題ということでした。逆に言えば、1学年2クラス以上あれば、問題にはならないということになります。金杉台中学校近くには路線バスが走っているため、例えば、バス通学できる範囲と定めれば、これまでに教育委員会が行ったシミュレーションよりもはるかに広い範囲の生徒が通学可能となります。船橋市全に（特に近隣の小学校の児童や保護者には詳しく）十分な情報を提供し、少人数であることを生かした教育環境で学びたい生徒を募れば、1学年1クラスという問題は解消します。国からの通達で統廃合の対象となっている小規模校でなくなれば金杉台中学校の存続問題は解決するのではないのでしょうか。

このように、教育委員会が示したシミュレーション以外に生徒増を増やす方法があります。小規模校を廃止するのではなく、活かす方向での議論が可能と考えられます。

以上より、金杉台中学校を廃校にすることを前提で議論を進めるのではなく、
存続させることも選択肢に入れて審議することをお願いします。